

報告事項

平成23年度秋田県公立高等学校入学者選抜
学力検査抽出調査結果について

1 検査教科の平均点（受検者）

教科等	平成23年度	平成22年度	前年度比
国語	55.0	60.0	-5.0
社会	50.2	64.6	-14.4
数学	42.2	51.7	-9.5
理科	50.5	59.5	-9.0
英語	50.6	53.1	-2.5
合計点	248.5	288.9	-40.4
100点換算点	49.7	57.8	-8.1

2 過去3年間の平均点の推移（受検者）

年度	教科						合計点	100点換算点
	国語	社会	数学	理科	英語			
平成23年度	55.0	50.2	42.2	50.5	50.6	248.5	49.7	
平成22年度	60.0	64.6	51.7	59.5	53.1	288.9	57.8	
平成21年度	62.0	59.1	52.2	51.6	62.6	287.5	57.5	

国 語

1 小問別の正答率

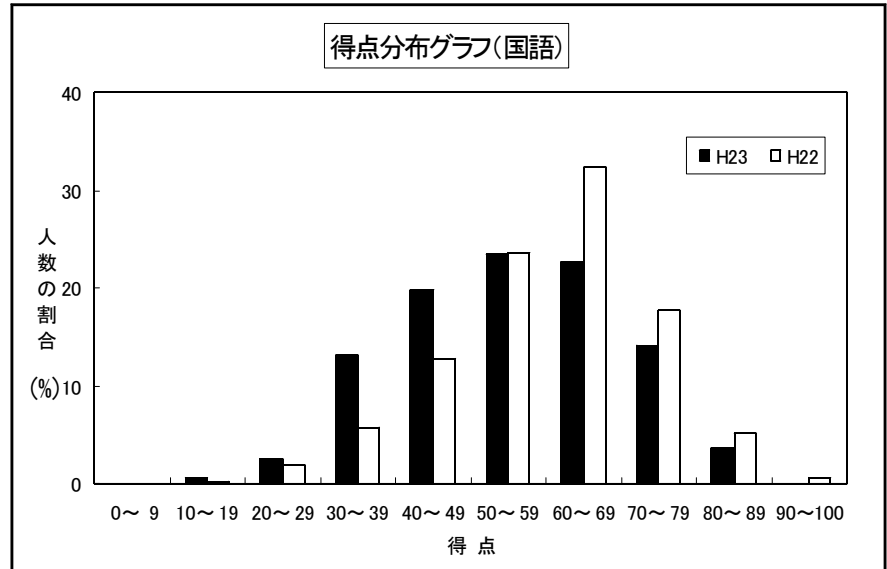
大問	小問	内 容	正答率(%)	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
一	1	「いつ」「どこで」を聞き取る（記述）	81.8											
	2	アニメ映画の効果の三要素を聞き取る（記述）	88.7											
	3	インタビューの問い方の工夫を聞き取る（選択）	95.0											
	4	内容に当てはまらないものを選ぶ（選択）	82.0											
二	1	① 配当漢字を書く 散った	85.1											
		② 配当漢字を書く 吸い込んだ	87.0											
		③ 常用漢字を読む 伴って	80.4											
		④ 常用漢字を読む 継いで	96.1											
	2	副詞「もう」に係る文節を書く（抜き書き）	46.1											
	3	a 人生の節目に立つ自らを見つめる主人公の心情を捉える（抜き書き）	48.9											
		b	41.7											
	4	直喩「影のように」が表す内容を捉える（選択）	71.5											
5	状況と心情を踏まえて行為の理由を説明する（記述）	3.3												
6	本文の内容に合っているものを選ぶ（選択）	50.3												
三	1	① 配当漢字を書く 統治	21.0											
		② 配当漢字を書く 建設	28.2											
		③ 常用漢字を読む 万事	89.0											
		④ 常用漢字を読む 前兆	97.0											
	2	五段活用の動詞を選ぶ（選択）	45.0											
	3	「かまどの煙」が表す内容を類推する（選択）	61.0											
	4	前後の文脈から「くさす」の意を捉える（記述）	12.7											
	5	(1) 「ことだまのむくい」と同義の表現を抜き出す（抜き書き）	33.6											
		(2) 本文に通じることわざを類推する「口は禍のかど」	58.3											
	6	a 万葉集から学んだ言葉を使う姿勢を捉える（記述）	19.8											
b 万葉集から学んだ言葉を使う姿勢を捉える（抜き書き）		27.1												
7	筆者の考えの述べ方の工夫を捉える（選択）	66.9												
四	1	示された意味を表す古語を類推する「とて」（抜き書き）	12.2											
	2	猪が仮死状態になった原因を読み取る（記述）	73.2											
	3	駆け引きする「猪買い」の心情を読み取る（記述）	16.9											
	4	a 落語中の挿入句を見付ける（抜き書き）	52.5											
		b 「猪を引かへした」意図を読み取る（記述）	32.9											
		c 狩人の言動のおかしさを読み取る（記述）	34.8											
		d 落語の「サゲ」の効果を捉える（選択）	87.3											
五	将来大切にしたいことについて自分の考えを書く	(50.4)												

※大問一～四の正答率は、完全正答の数により算出している。

※大問五は、得点の平均である。

2 得点分布と得点分布グラフ (得点分布表)

年度 段階	平成23年度	平成22年度
90～100	0.0	0.5
80～ 89	3.6	5.2
70～ 79	14.1	17.7
60～ 69	22.6	32.3
50～ 59	23.5	23.6
40～ 49	19.9	12.8
30～ 39	13.2	5.7
20～ 29	2.5	2.0
10～ 19	0.6	0.2
0～ 9	0.0	0.0
計	100.0	100.0
平均点	55.0	60.0
標準偏差	14.6	13.4



3 現状の分析

得点率の平均は55.0点と、昨年度、一昨年度をやや下回った。得点分布をみると、昨年度に比べ60～70点台が減少し、30～40点台が増加している。大問一の「聞くこと」に関する検査の得点率が高かったのに対し、大問三、四が低かった。学習の積み重ね等によって習熟した分野ではよい結果が表れたようである。しかし、内容や書き手の考え方、表現の意図などについて文章中の言葉や表現から類推し、条件に応じた的確に表現する力をみる問題については、正答率が低かった。

- ① 「聞くこと」に関する検査では、メモを取るなどして話の要点を整理して聞くことや、話し方の工夫を捉えることがよくできていた。実践的な学習の成果が表れていると感じた。
- ② 漢字・語句については、訓読みの漢字の読み書きは高い正答率であった。一方、音読みの漢字の書き取りは著しく正答率が低かった。文脈から類推して語句の意味を捉える力を付けさせたい。
- ③ 文章の読み取りでは、全体の構成や表現の意図を捉え、求められている形に整えて記述する力に課題がみられる。細部のみでなく全体を捉えるための叙述に沿った読みの力を付けさせたい。
- ④ 古文では、古文の内容の読み取りは概ねできていた。しかし、表現の効果や人物の行動の意味などを、古文を原話とする落語と比較して読み取り、説明する問題の正答率が低かった。
- ⑤ 作文は、自分の考えについて根拠や理由付けを明確に書いているものが少なかった。説得力のある文章にするために、具体例を挙げたり理由付けしたりして書く経験を重ねさせたい。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】 文章の読解では、情報の取り出し、解釈・評価、表現を取り入れた学習。
 古典では、古典の世界を生徒自らが広げ楽しむことができるような学習。
 作文では、課題意識をもち、思考を深め、効果的に表現する経験の蓄積。
 授業や学習をきっかけにして、読書の幅を自ら広げようとする意欲の喚起。

- ① 文学的な文章においては、登場人物の言動の意味や書き手の意図などを、文章中の言葉を手がかりにして捉え、条件に合わせて表現する学習が大切である。
- ② 説明的な文章においては、文章の構成や論の展開の仕方に気を付けながら、筆者の主張を捉え、自分の言葉で再構築する学習が必要である。また、効果的な論述の仕方についても理解を図り、その後の「読むこと」や「書くこと」の学習に生かすような指導が大切である。
- ③ 古典の学習においては、古典の世界を楽しむためにも、教材とする作品の特徴に応じて関連する作品にも触れながら、ものの見方や考え方を広げたり深めたりすることを取り入れたい。
- ④ 作文においては、日頃から社会や身の回りの出来事に題材を求めて、自分の考えを深めて書く経験が求められる。また、自分の考えを効果的に伝えるための練習を重ねる必要がある。

社 会

1 小問別の正答率

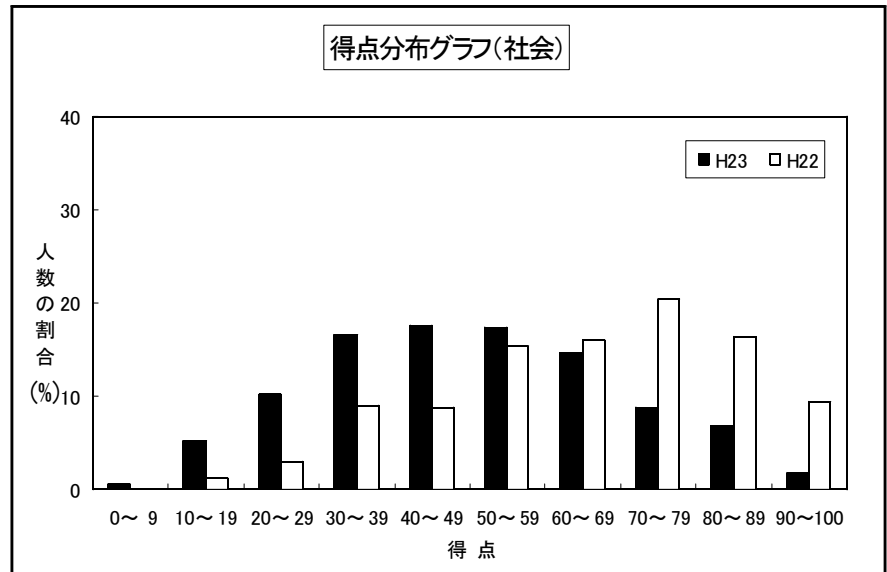
大問	小問	内 容	正答率(%)	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100 (%)	
1	(1)	地球儀の見方と赤道	72.7												
		日本の標準時子午線	37.6												
	(2)	南半球の気候の特徴	45.9												
	(3)	都市間の時差	25.1												
	(4)	地球儀の見方と海洋面積	63.0												
	(5)	①	地球儀の見方と国の位置	51.4											
		②	気候の特色	67.4											
			気候と農業	21.0											
	2	(1)	都道府県の位置と特色	86.5											
		(2)	日本の略地図と県の位置	65.2											
県庁所在地の名称			59.4												
(3)		秋田県の特色	79.8												
		日本の農林水産業の特色	88.7												
(4)		人口密度と地方区分	13.3												
3	(5)	日本の工業の特色	16.7												
	(1)	平安・鎌倉・室町時代の流れと特色	50.8												
	(2)	室町時代の特色と文化	34.0												
	(3)	奈良時代の特色と文化	56.6												
	(4)	鎌倉時代の経済と社会	28.5												
	(5)	江戸時代の国際関係	27.9												
	(6)	戦後の国際関係	39.2												
	(7)	平安・室町時代の特色と人物	55.0												
	(8)	大正時代の特色	33.1												
	(9)	①	明治時代のはじまり	79.0											
a 富国強兵政策			24.9												
②		b 立憲国家の成立	4.2												
		c 日清・日露戦争	35.4												
		Y 明治時代の特色	16.3												
4	(1)	① a 国庫支出金	89.0												
		b 地方交付税交付金	97.0												
	②	直接税	65.7												
	(2)	①	禁漁の原因と目的	69.9											
		②	漁獲量の推移	81.5											
			供給量と価格の関係	38.6											
	(3)	需要と供給の関係	14.2												
5	(1)	①	内閣の構成	83.4											
		②	衆議院の優越	49.4											
	(2)	い	条例の制定(提出先)	60.2											
		う	直接請求の手続き	52.5											
		え	直接請求権の種類	51.4											
		お	住民の権利	52.8											
	(3)	①	普通選挙の実施	53.9											
		②	選挙権の拡大	49.4											

※正答率は、完全正答の数により算出している。

2 得点分布と得点分布グラフ

(得点分布表)

年度 段階	平成23年度	平成22年度
90～100	1.9	9.4
80～ 89	6.9	16.5
70～ 79	8.8	20.4
60～ 69	14.6	16.0
50～ 59	17.4	15.5
40～ 49	17.7	8.9
30～ 39	16.6	9.1
20～ 29	10.2	3.0
10～ 19	5.3	1.2
0～ 9	0.6	0.0
計	100.0	100.0
平均点	50.2	64.6
標準偏差	19.9	19.3



3 現状の分析

前年度に比べ、70点以上の層が28.7%減少し、平均点は14.4点下がった。複数の資料から情報を読み取る力、関連付けて考察する力、また、それらを総合して表現する力をみる問題が各分野に出題されましたが、昨年度と比べて70点以上の層が減り、表現力を課題とする本県の生徒にとって、新たな方向性が示された結果となった。

- ① 大問1(1)、(4)、(5)は、世界の地域構成を大観する技能を身に付けていないと解けない問題。海洋や世界の諸地域の位置関係を地球規模でとらえる力を身に付けさせたい。
- ② 大問2(2)は、「大まかに日本地図を描けるようにすること」[学習指導要領]に基づき、日本の稜線から県を特定する問題(正答率65.2%)。また、(5)は、提示された二つの資料「加工組立型の工業」と「自動車輸送の増加」から、「部品は自動車で運びやすい」という気付きを基に、工場の新設件数をキーワードとして表現させる問題であった(正答率16.7%)。
- ③ 大問3(1)は、各時代の特色を読み取り、鎌倉時代の前後のカードを特定する問題。50.8%の正答率であり、時代の特色を踏まえ、歴史を大観する力を一層身に付ける必要がある。
- ④ 大問4(2)②の価格と漁獲量の関係からグラフを特定する問題の正答率は81.5%。一方で、選んだ理由を述べる問題の正答率は、38.6%であった。基礎的・基本的な知識を身に付けていながら、それを自分の言葉で表現する力が不十分であることを如実に表す結果となった。
- ⑤ 大問5(3)は、戦前、戦後の選挙制度の違いを述べる歴史的分野の問題。正答率が49.4%であり、第二次世界大戦を機に民主政治が大きく変化した歴史的な認識が十分とは言えない。

4 授業において取り組むべきこと

**【ポイント】 導入資料・主発問の工夫、問題解決的な学習活動の推進。
 作業的・体験的な学習活動、言語活動の推進。
 社会的事象を比較、関連付け、総合するなどして考察し、表現させる学習活動の推進。**

基礎的・基本的な知識を基に、複数の資料を比較したり、関連付けたりして思考・判断させる学習活動やそれらを基に説明、論述、議論するなどの言語活動の一層の充実が求められている。

- ① 地理的分野では、世界の地域構成や日本の地域的特色を大観する技能を身に付けさせる必要があり、地球儀や地図を活用し、理解したことを表現させる授業を一層推進してほしい。
- ② 歴史的分野では、各時代の特色を理解させた上で、他の時代との相違点や共通点を明らかにしたり、時代が移り変わる様子を説明したりして、歴史を大観する力を身に付けさせることが重要である。
- ③ 公民的分野では、現代の社会的事象が地理的事象や歴史的事象と密接に関連していることを踏まえ、総合的に社会的事象を取り上げる必要がある。資料から読み取れる情報と基礎的・基本的な知識を関連させ、鍛えられた思考力・判断力を生かした言語活動の一層の充実を図ってほしい。

数 学

1 小問別の正答率

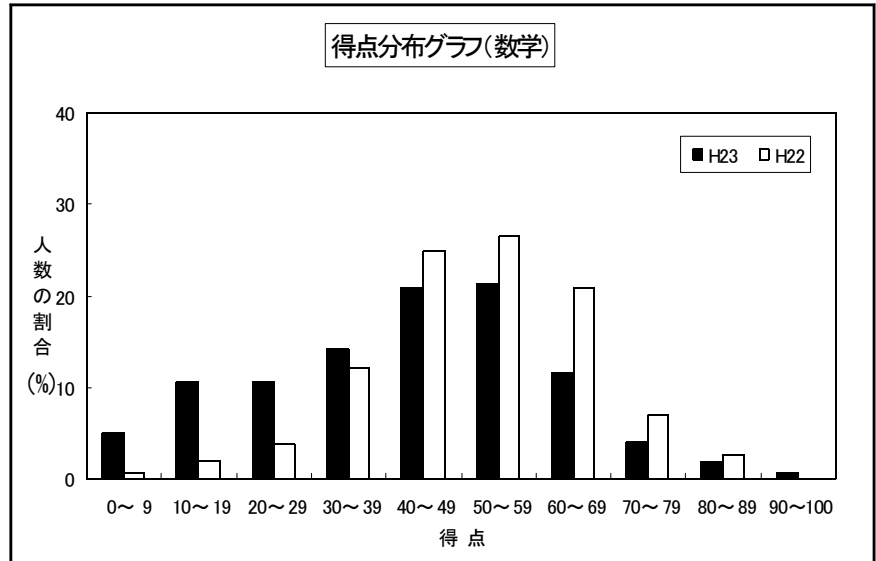
大問	小問	内 容	正答率(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 (%)	選択率(%)	
1	(1)	正負の数の計算と大小	74.8		30.7	
	(2)	文字式の表し方	33.6		32.0	
	(3)	単項式の乗除	64.9		79.6	
	(4)	等式変形	79.7		51.7	
	(5)	文字を使った式	58.8		32.9	
	(6)	平方根	43.4		43.9	
	(7)	①	2次方程式	77.0		81.8
		②	2次方程式	66.2		81.8
	(8)	連立方程式	84.2		76.8	
	(9)	数量の表し方	48.7		43.1	
	(10)	平方根の活用	12.0		27.6	
	(11)	平行四辺形の性質と三角形の内角	68.2		92.0	
	(12)	平面図形の性質と線分の長さ	47.1		47.0	
	(13)	三角形の面積の大小	55.7		72.9	
	(14)	錐体の高さ	29.0		67.7	
(15)	①	三角形の高さ	36.5		20.4	
	②	回転体の体積	18.9		20.4	
2	(1)	ア	数や式による説明	79.8		40.1
		イ	数や式による説明	74.0		
		ウ	数や式による説明	69.3		
		エ	数や式による説明	54.1		
		オ	数や式による説明	28.5		
	カ	数や式による説明	27.9			
	(2)	①	数や式による説明	38.7		
		②	数や式を用いた説明	7.5		
	(3)	ケ	数や式を用いた説明	8.6		
コカ		数や式による説明	5.2			
シ	数や式による説明	10.5				
3	(1)	①	2乗に比例する関数の比例定数	74.6		
		②	2点を通る直線の式	53.6		
		③	1次関数の総合的な問題	20.4		
(2)	基本作図の利用	39.0				
4	(1)	①	三角形の相似の証明	36.7		
		②	三平方の定理と相似	7.2		
	(2)	①	場合の数	52.5		
		②	確率	12.4		
5 I	(1)	事象の読み取り	47.6		40.1	
	(2)	グラフの読み取り	49.7			
	(3)	1次関数の応用	18.6			
5 II	(1)	事象の読み取り	69.3		27.9	
	(2)	1次関数のグラフ	5.0			
	(3)	1次関数の応用	0.0			
5 III	(1)	ア	事象の読み取り	34.5		32.0
		イ	1次関数の式	2.6		
		ウ	事象の読み取り	22.4		
		エ	事象の読み取り	2.6		
	(2)	①	1次関数の総合的な問題	0.0		
②		1次関数の総合的な問題	0.0			

※正答率は、完全正答の数により算出している。

※大問1、5は学校選択の問題である。選択率は、その問題を解くように指示された受検者の割合を示している。

2 得点分布と得点分布グラフ (得点分布表)

段階	年度	平成23年度	平成22年度
90～100		0.6	0.0
80～89		1.7	2.5
70～79		3.9	6.9
60～69		11.6	20.9
50～59		21.2	26.4
40～49		20.9	24.9
30～39		14.1	12.1
20～29		10.5	3.7
10～19		10.5	2.0
0～9		5.0	0.6
計		100.0	100.0
平均点		42.2	51.7
標準偏差		19.0	14.5



3 現状分析

- ① 大問1では、(4)等式変形は正答率が約8割であり学習の成果が伺える。(8)連立方程式はよくできている。(2)(5)(9)のように、数量を文字を用いて式に表現することには課題がみられる。(6)分母の有理化や、(7)2次方程式の解の意味理解に課題がみられる。(14)は円や扇形の性質から円錐の母線や高さを求めることに課題がみられる。
- ② 大問2では、2人の会話から題意を読み取り、除数、被除数と余りの関係を用いた数の性質を理解することや、数学的な表現を用いて理由や説明を記述することに課題がみられる。
- ③ 大問3では、(1)③は②の結果を利用して解決することに課題がみられる。(2)作図は無答率が大きく減少し、日頃の学習の成果がみられる。
- ④ 大問4では、(1)①証明では部分点も含めると約7割の生徒が得点しており、学習の成果がみられるが、このことを利用して②を解決することに課題がみられる。(2)は事象を読み取り、条件を満たす場合の数を、落ちや重なりがなく数え上げることに課題がみられる。
- ⑤ 大問5では、数量関係を式やグラフに表したり、図形の性質を用いて総合的に考察したりすることに課題がみられる。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】 数学的な思考力・表現力を高めることを意識した授業展開。
既習事項との関連を重視し、必要に応じて学び直しの機会を設定した学習の推進。
数学的活動を通して、意味理解を深める指導の充実。

- ① 数学的な思考力・表現力を高めることを意識した授業を展開していく必要がある。例えば、大問2のように、事象を数理的に考察し、推測したり見いだしたりした数の性質を的確に表し、その妥当性について根拠を明らかにして、筋道立てて説明する活動を重視したい。
- ② 「数と式」の領域では、大問1(6)(7)のように、計算や方程式を解くことなどの基本的な技能は確実に身に付けさせるとともに、その背景にある概念や原理についての理解を深めるようにしたい。また、大問1(2)(5)(9)のように数量を文字を用いて式に表現する問題においては、具体的な数や図と関連付けるなど、生徒の実態に応じた指導を充実させたい。
- ③ 「図形」の領域では、平面図形の基本的な性質や定理を用いながら、多面的な見方や考え方を問う場面を設定したい。また、大問1(13)のように与えられた条件を満たす図形を考察する活動や、大問4(1)②のように求めた結果を活用して新たな課題を解決する活動を取り入れたい。
- ④ 「数量関係」の領域では、大問3(1)や大問5のように、2つの数量関係を表、式、グラフで表現したり、逆に表、式、グラフから必要な情報を読み取ったりして、総合的に考察する活動を充実させたい。

理 科

1 小問別の正答率

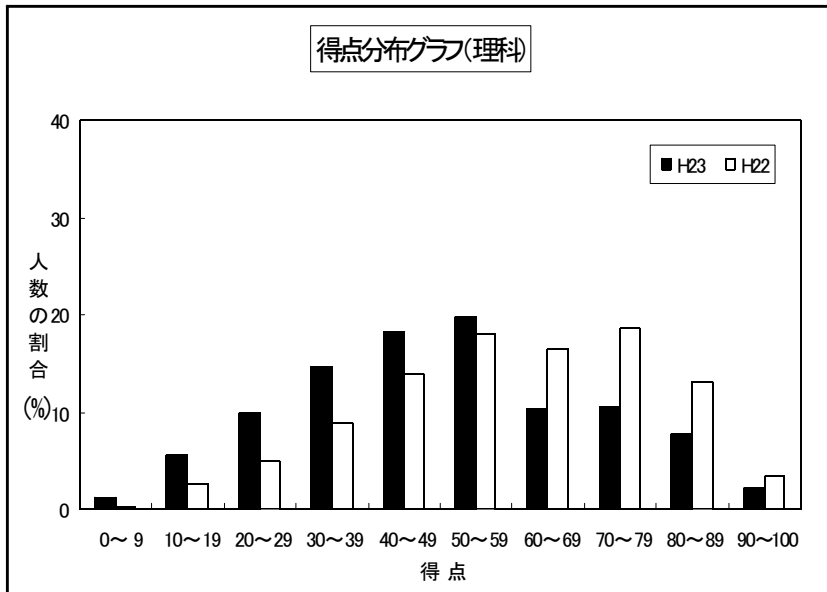
大問	小問	内容	正答率(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 (%)	
1	(1)	大気圧の原因	34.0		
	(2)	温度や大気圧の変化による空気の体積変化	43.6		
	(3)	山頂で菓子ぶくろがふくらむ理由	75.7		
	(4)	①	低気圧接近に伴う気圧の変化	39.2	
		②	机が大気圧から受ける力	26.8	
2	(1)	双子葉類の根の特徴	76.8		
	(2)	胚珠を包んでいる部分	91.7		
	(3)	柱頭の細胞の核にある染色体の数	47.5		
	(4)	①	劣性の形質	69.3	
		②	種子の形を決める遺伝子の遺伝	43.1	
③		いろいろな遺伝	65.2		
3	(1)	①	中和反応による生成物	50.8	
		②	硝酸カリウムの結晶の形	21.0	
		③	中和反応における塩の量	58.8	
	(2)	①	溶解度の考え方	47.8	
		②	温度変化による物質のとけ方	32.6	
		③	溶解度の温度による変化	24.3	
4	(1)	①	抵抗を流れる電流と電圧のグラフ	46.4	
		②	2つの抵抗の抵抗値の比較	63.0	
		③	電力の大きさの比較	38.4	
	(2)	磁界中における電流が流れるパイプの運動	89.5		
	(3)	①	斜面上での力のつり合い	53.9	
		②	電流が強くなったときのパイプの運動	26.0	
5	(1)	デンプンとブドウ糖に含まれる原子の記号	70.2		
	(2)	デンプンとブドウ糖の粒の大きさ	54.7		
	(3)	①	食物の成分を消化するはたらき	74.0	
		②	デンプンがブドウ糖に変化する理由	51.7	
		③	熱エネルギーと運動エネルギーの利用	87.8	
6	(1)	太陽系の天体	22.4		
	(2)	地球と太陽の距離を求める計算	32.0		
	(3)	Y	上弦の月が南中する時刻	35.9	
		Z	月の方角3日後	31.5	
	(4)	明け方東の空に見える月の形	22.9		
	(5)	月から見た地球の形	31.5		

※正答率は、完全正答の数により算出している。

2 得点分布と得点分布グラフ

(得点分布表)

年度 段階	平成23年度	平成22年度
90～100	2.2	3.4
80～89	7.7	13.1
70～79	10.5	18.7
60～69	10.2	16.5
50～59	19.9	18.0
40～49	18.2	13.8
30～39	14.7	8.9
20～29	10.0	4.9
10～19	5.5	2.5
0～9	1.1	0.2
計	100.0	100.0
平均点	50.5	59.5
標準偏差	20.6	19.2



3 現状の分析

- ① 大問1(4)②の机が大気圧から受ける力、大問3(2)①溶解度の考え方、大問6(2)の地球と太陽の距離を求める計算など、数値を処理する力が十分とは言えない。
- ② 大問1(4)①の低気圧接近に伴う気圧の変化、大問3(2)③の溶解度の温度による変化、大問4(3)②の電流が強くなったときのパイプの運動については文章で表現する力が十分とは言えない。
- ③ 大問2(1)の双子葉類の根の特徴については、図を用いて適切に表現する力が身に付いている。
- ④ 大問2(2)の胚珠を包んでいる部分の名称や大問4(2)のパイプの運動の様子については、90%を越える非常に高い正答率であった。それに対して、大問6(1)の太陽系の天体については、完全正答による正答率は22.4%と低くなっており、月を「衛星」と正しく解答しているものも51.1%にとどまっている。この単元の基本的な事項の定着が十分とは言えない。
- ⑤ 大問3(1)②の硝酸カリウムの結晶の形については、正答率が21.0%と最も低かった。うすい硝酸にうすい水酸化カリウム水溶液を加えると、中和反応が起きて硝酸カリウムができることや、その結晶の形の理解が十分とは言えない。
- ⑥ 観点別での正答率は、「科学的な思考」が44.0%、「技能・表現」が48.6%、「知識・理解」が56.4%であり、科学的に考察し表現する力の向上が課題である。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】 観察や実験した結果を、図やグラフを交え、科学的な知識や概念を用いて考察し表現する力を高める授業。また、実験結果や資料から得られた数値を正しく処理する力を養成する授業。

- ① 大気圧と天気図(大問1)、月の動きと見え方(大問6)は、学習した内容を日常生活と関連付けて活用する力が求められる問題である。日頃から身の回りの話題を取り上げるなどして、理科が日常生活と結び付いていることを実感させながら、探究心を育てていくことが必要である。
- ② 大問1(4)①、大問3(2)③、大問4(3)②、大問5(3)②に見られるように、言葉で説明する力は十分ではない。実験結果や考察等を、科学的な知識や概念を用いて授業の中で生徒に発表させたり、レポート等にまとめさせたりする取組をさらに充実させる必要がある。そのためには、生徒同士で討論しながら考えを深め合うなどの学習活動を工夫することが大切である。
- ③ 大問1(4)②、大問3(2)②、大問6(2)のように、数値の処理を伴う問題の正答率が低い。観察・実験の結果を分析して解釈させる際に、得られたデータを的確に処理する活動を繰り返し取り入れるなどの学習活動を充実させる必要がある。

英 語

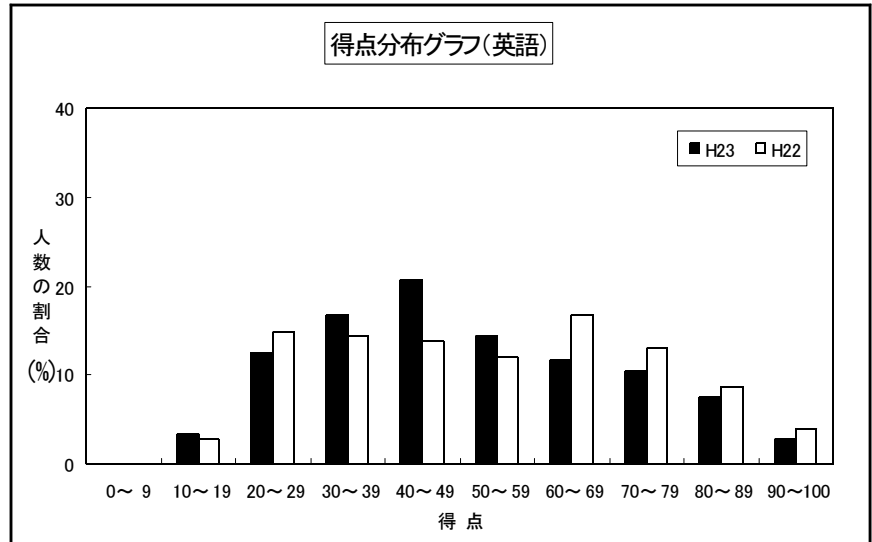
1 小問別の正答率

大問	小問	内 容	正答率 (%)	%
1	リスニング問題			
	(1)	① プレゼントの中身は何か	94.8	
		② Kenがやっているスポーツは何か	97.5	
	(2)	① 「元気ですか」に回答する場合	87.6	
		② 「箱を運んでほしい」に回答する場合	59.8	
		③ 「コンピュータがほしい」に回答する場合	65.6	
	(3)	① ユウコがアメリカに行きたい理由がわかるか	96.1	
		② ユウコがいつ沖縄に行ったかわかるか	87.3	
		③ 彼らの最も大きな問題は何かわかるか	71.1	
	(4)	① 英語を話す国の数をつづりで書けるか	56.2	
		② in JapanからJapaneseという語を書けるか	25.3	
		③ around the worldからabroadという語を書けるか	10.5	
	2	(1)	① 否定文のdidn'tを使えるか	65.8
② 助動詞の表現shall Iを使えるか			55.6	
③ 「～になる」のturnを使えるか			39.7	
④ 自動詞lookを使えるか			90.4	
(2)		① 現在分詞の後置修飾を使って文を作れるか	70.8	
		② where+to不定詞を使って文を作れるか	49.6	
		③ 現在完了の継続用法を使って文を作れるか	36.4	
(3)		① 部活動に入っているかたずねる英文を作れるか	19.3	
	② 家族の人数をたずねる英文を作れるか	24.2		
(4)	自分の意見を15語以上で言えるか	10.5		
3	(1)	① Lucyの家族で誰が夕食を作ったか答えられるか	36.1	
		② Jiroがどうやって学校へ行ったか答えられるか	40.8	
	(2)	① ペットとしての犬の話から論理的につながる文を選べるか	48.2	
		② 英語が分からない時のマナーを論理的に選べるか	44.9	
4	(1)	ツアーが始まる曜日がわかるか	38.8	
	(2)	会話の中に当てはまる表現を入れられるか	59.2	
	(3)	ツアーが行われる階がわかるか	62.8	
	(4)	ツアーに参加する時刻がわかるか	61.7	
	(5)	thatの内容を日本語で書けるか	18.7	
5	(1)	① 文脈から適当な単語を選ぶことができるか 「～になる」	22.9	
		② " "	48.8	
		③ " "	38.3	
	(2)	I Iに適切な英文を選択できるか	43.8	
		II IIに適切な英文を選択できるか	46.6	
		III IIIに適切な英文を選択できるか	17.6	
	(3)	日本の援助により子どもたちに起きた変化がわかるか	44.1	
	(4)	「ミレニアム開発目標」のどれにあたるかわかるか	47.1	
	(5)	I am gladと感じた理由を40字程度の日本語で書けるか	7.4	
	(6)	cooperateの意味を推察できるか	79.1	
(7)	イ 本文の内容に合っているものを選択できるか	65.0		
	エ		25.1	

※正答率は、完全正答の数により算出している。

2 得点分布と得点分布グラフ (得点分布表)

段階 \ 年度	平成23年度	平成22年度
90～100	2.8	3.9
80～ 89	7.5	8.6
70～ 79	10.5	13.1
60～ 69	11.6	16.7
50～ 59	14.4	12.1
40～ 49	20.7	13.8
30～ 39	16.8	14.3
20～ 29	12.4	14.8
10～ 19	3.3	2.7
0～ 9	0.0	0.0
計	100.0	100.0
平均点	50.6	53.1
標準偏差	19.9	21.4



3 現状の分析

- ① 英文を読み取る思考力を見る設問が増え、全体的な難易度は昨年より高くなった。また、英語や日本語で記述して答える設問が多かったため、平均点は昨年度より2.5点低下した。正答率が70%以上の小問数は9問で昨年度より2問減り、30%以下の小問数は10問で昨年度より1問増えた。
- ② 大問1(4)では、既習語を聞いて理解できるだけでなく、それらを使って適切に表現する力を見る設問であるが正しく書く力が不十分である。
- ③ 大問2(1)は、基礎的な文法事項の理解度を見る設問であるが、時制や助動詞の使い方などの定着が十分ではない。
- ④ 大問3(1)の主語と動詞を含む英文で答える問題では、昨年度よりも正答率が上がり、中学校での指導の成果が表れているが、適切な代名詞に書き換えることにまだ課題が残る。(2)は論理的読解を問う問題であるが、話の展開や接続詞に注意して丁寧に読み進める力が十分とは言えない。
- ⑤ 大問4では、会話の展開や文脈をおおまかに読み取ることには指導の成果が表れているが、代名詞等が何を指しているのかを含め、読み取りの精度が要求される(5)のような問題には課題が残る。
- ⑥ 大問5は、国際理解とは何かという抽象的なテーマを扱った英文であり、このような英文を読むことに抵抗感があることがうかがわれた。書かれている英文を与えられた条件に従って日本語でまとめる力に課題がみられたが、未知語を文脈の中で類推する力は昨年同様高い正答率となった。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】 コミュニケーションを支える基本的文法事項を確実に定着させる。
 基本的な語彙についての知識を「身に付ける」段階から、「運用できる」段階にする。
 論理展開を考え、思考力を働かせて英文を読み取る力を育む。

- ① 文法はコミュニケーションを支えるものであり、4技能を統合的に活用する言語活動と一体的に指導し、正しい文構造や語法で英語を話したり書いたりすることができるように指導する必要がある。
- ② 語彙の習得は英語を学習する上で欠かせないものであるが、聞いたり読んだりして意味が分かるだけでなく、自らの体験や考えなどと結び付けながら、話したり書いたりする活動において使えるように指導することが求められる。
- ③ 聞いたり読んだりした英語の内容を単に理解するだけでなく、論理的に読み取る思考力を育てるために、論理展開を意識して工夫した発問をするような場面を授業で設定したい。